



作業を決め、やり方や分担を決めたら、 めちやくちゃきれいで早い

(株)はしもと農園&

B型事業所わくわく(株)アミークス

各務原市の田園地帯に、ひとときわ目を引く巨大なオランダ式ハウス。

(株)はしもと農園では、令和2年3月から、就労継続支援B型事業所のわくわくが、ハウス内の清掃を受託している。きっかけは、岐阜農林事務所から渡された、ぎふアグリチャレンジ支援センターの「農福連携に関するアンケート」だった。代表取締役社長の橋本涼さんは、「障がい者施設にパック詰めを委託している知り合いから、丁寧に作業してくれて助かっていると聞いたことがあり、『農作業の一部を委託できる障がい者施設があれば活用したい』にチェックを入れました」と言う。

経営者として、常に作業の最適化を考えていて、「障がい者だからというわけではなく、その作業に合っている人のほうが効率がいいに決まっています。だったら、農作業の一部分を委託するという考えも面白い」と思ったそうだ。

B型事業所わくわくに作業を委託するにあたり、従業員の作業の割り振りを行う北川史子さんは、どんな作業が合っているのかはわからないので、慣

れた従業員も働いている中で、何をしてもらうと助かるかを考えたそうだ。

北川さんが提案した作業は「ハウス内の清掃」。通路や株下に熟して落果した実や葉を掃除する作業で、病気予防のためには欠かせない作業。定期的に従業員が行っていたが、収穫最盛期になると、落果量も増えていき、収穫作業に追われて後回しになっていたそうだ。

B型事業所わくわくと調整し、週2回、職員が同行して4〜5人で作業に当たる。作業時間は、10時30分〜12時00分、1日7〜8列、1ヶ月で全60列を清掃すると決めた。

「作業内容を決めたら、後は、職員さんや利用者さんが、皆で段取りや分担を考えて、手際よく作業してくれたので、



橋本 涼 さん

不安はありませんでした。私は、専用の下駄箱や荷物置き用カートを準備しただけ。専用靴も準備してくれました」。

橋本さんも北川さんも作業の速さ、丁寧さには驚いたという。

「私たちがするより早くてきれい」と従業員も声をそろえる。

天気の良い日は、10分作業するだけで汗だくになってしまふ。効率よく作業できるように、両側から同時に掃き寄せ、回収しやすいように集める場所を数ヶ所にするなどの工夫をして、日を追うごとにスピードアップしていったという。

列ごとに番号が表示されているので、作業範囲が分かりやすく、目標が立て



列の両側から同時に掃き寄せる工夫でスピードアップ

やすい。当日の予定列数が終わると、全員で取り残しがないか確認を行う。作業が終わると、利用者は「楽しかった。次は○曜日だね」と笑顔を見せた。

B型事業所わくわくの生活支援員で、事業所内の作業所で自動車部品のバリ取りを行っている、作業内容は理解しているものの、長時間座って作業することが苦手な利用者もいます。利用者に色々な作業を経験していただきたくて受託することにしました」と言う。

「僕は、常に見ていたわけではないんですけどね」と前置きをして橋本さんは言う。

「作業を決めて、やり方や分担を決めたら、めちゃくちゃ早くて、きれいにしてくれて気持ちがいいんです。それに、委託だと職員がいてくださるので、何かあっても安心出来ます。」

「工賃についても、1列400円という出来高制なので、明確でわかりやすいですし、仕事をし、その対価がもらえるという、しっかりとした循環が来ています。農園と

しては、従業員が、それぞれの作業に集中できるので、結果的に利益につながっていきます。雇用でも委託でも能力に差があっても、自分に合った仕事ができたらいいし、さらに別の作業にチャレンジできる仕組みがあればもっといいと思っています」。

清掃作業を高く評価した橋本さんは、清掃作業に加えて、施設内で作業出来るパックのシール貼りも委託することにした。作業日に受け渡しすることになっているが、時間が無くて用意が出来ず、「今日は渡せない」というと、「やりたかった」と残念そうな顔をする利用者もいる。今後、ハウス内に作業場を整えて、箱折も委託したいと考えているそうだ。

7月、ミニトマトの収穫後の株の片付け時に、全60列を一気に清掃して、今シーズンの作業を終えた。

11月頃には、収穫が再開する。その時はまた、ハウス内で元気に作業する利用者たちが戻ってくる。



パックのシール貼りはシールの位置が指定される



シーズンの締めくくり。株を外した後に、一気に掃き上げていく

取材メモ

株式会社はしもと農園(各務原市)
品 目：ミニトマト(あかね)
作付面積：連棟ハウス(約35アール)
わくわく(各務原市)
サービス種別：就労継続支援B型
運営法人：株式会社アミークス